

3-1 アルペンスノーボード競技 実施要項

1. 趣旨

この要項は、全国ろうあ者冬季体育大会開催要項に基づき開催するアルペンスノーボード競技の実施に必要な事項を定める。

2. 名称

アルペンスノーボード競技とする。

3. 種目

競技種目は次の2種類とする。

- ① 大回転
- ② 回転

4. クラス

クラスは次の2種類とする。

- ③ 女子
- ④ 男子

5. 期間

競技の期間は2日間を原則とするが、天候の状況等の特別な事情を考慮し、1日に短縮することがある。

6. 競技規則

別紙運営規則、競技規則を適用する他は、(公財)全日本スキー連盟(以降、SAJと呼ぶ)競技規則最新版に準ずる。

7. 出場資格

全国ろうあ者冬季体育大会開催要項による。

8. 競技方法

- ① SAJ競技規則による。但し、別紙の競技規則に定められたものが優先する。
- ② 大回転、回転とも男女別2本とし、1本目と2本目の合計タイムで順位を決定する。
- ③ スタート順は女子クラスからとし、それぞれのクラス内でビブ順とする。但し、2本目については別紙競技ルールによるリバーススタートとする。

9. 表彰

全国ろうあ者冬季体育大会開催要項による。

10. チームキャプテン会議

- ① 競技開始の前日にチームキャプテン会議を行う。
- ② タイムスケジュール、コースプロフィール、競技ルールの説明や競技に関する注意事項等の確認を行う。
- ③ チームキャプテン会議出席者は、加盟団体のチームキャプテン、コーチの各1名とする。

但し、選手がこれらを兼任することを認める。

- ④ ビズを配布する。
- ⑤ 一般選手の発言は認めないが、傍聴は認める。

1 1. その他

- ① 応急措置については、応急手当のみ行いその他責任を負わない。
- ② スタート合図は光源による点滅表示（スタート前 10 秒のカウント）で、最後の点滅でスタートする。
- ③ スタート台にスタート用バーを設置する。
- ④ 競技中はリーシュコード等ストッパー着用を原則とする。
- ⑤ 競技中はクラッシュヘルメットを着用すること。
- ⑥ 競技中は補聴器の使用を禁止する。
- ⑦ 天候不順の場合は、ジュリー会議の決定によりこれまでに成立した競技種目の終了をもって競技の成立とする。
- ⑧ その他の事項については、当該年度の大会申合せ事項による。

- ・ 2005年 2月27日 第7回全国委員会で一部改正
- ・ 2006年11月11日 第4回スポーツ委員会本委員会で全面改正
- ・ 2009年10月 2日 書面スポーツ委員会本委員会で一部改正
- ・ 2021年12月 2日 書面スポーツ委員会で一部改正

【本大会申合せ事項】

なし

3-2 アルペンスノーボード競技 運営規則

1. 競技運営にあたって、競技委員会及びジュリーを置く。

- (1) 競技委員会は、競技バーンの選定、準備、進行等のすべての技術的事項を扱い、メンバーは、競技委員長、コース係長、主審、スタート審判、フィニッシュ審判、計時計算係長、セクレタリーとする。
- (2) ジュリーは、競技実施上の責任を有し、メンバーは、技術代表、競技委員長、コース係長、主審とし、必要に応じてジュリー会議を適宜行う。

2. ジュリー会議及びジュリーの任務

ジュリー会議及びジュリーの任務は、次の各号に掲げる任務を行う。

- (1) 選手の参加資格の確認
- (2) 競技コース基準及び整備状況の確認並びに危険予防措置の点検
- (3) 現地医療機関、応急措置、現地パトロールとの連絡手段等の点検
- (4) スタート、フィニッシュエリアとアウトラインの点検
- (5) 競技コースに整備不良、安全対策の不備、選手に危険をもたらす気象の変化が生じたとき等について協議し、中止・中断・日程短縮を決定する。
- (6) 正規の手続きによる抗議があった場合は、審議し、取扱を決定する。

3. 技術代表

技術代表は（一財）全日本ろうあ連盟スポーツ委員会より委嘱された技術委員とし、主催側の公式な代表として次の各号に掲げる任務を行う。

- (1) 競技の運営責任者として、競技運営の指揮をとる。
- (2) 競技委員会と協議し決定した事柄について、（一財）全日本ろうあ連盟スポーツ委員会に報告する。
- (3) 大会全体及び競技の準備状況を把握する。
- (4) 競技委員会、実行委員会との連絡を密にし、競技規則に従い、公正・円滑に実施されているかを監視する。
- (5) チームキャプテン会議の議長となり、裁決を必要とするとき賛否同数の場合は決定権がある。
- (6) 競技の運営に極めて危険な条件が生じ緊急を要する場合は、他のジュリーメンバーに相談できなくでも、中断もしくは中止することができる。
- (7) 体力的・技術的に出場することが危険と認められる選手を除外するようチームキャプテン会議に提案する権利を有する。
- (8) 競技コースの視察及び最終確認を行う。
- (9) 公式成績の認証及び問題点等について（一財）全日本ろうあ連盟スポーツ委員会に報告する。
- (10) 公式成績の発表ならびに表彰状の授与を行う。

4. 競技委員長

競技委員長は、競技主管の中から選び、全競技役員の業務を指揮監督者として、次の各号に掲げる任務を行う。

- (1) S A J 競技ルールに準じて競技委員会を設ける。
- (2) 技術代表と協議し、技術的な問題を検討する。
- (3) 準備から競技会終了まで円滑な競技運営上の責任を有する。
- (4) スタート審判、記録係の指揮及び調整を行い競技進行について責任を有する。

5. コース係長

コース係長は、開催地のゲレンデと雪の状況を熟知し、競技委員会及びジュリーの指示に従って、競技バーンを準備する責任を有する。

6. スタート審判

スタート審判は、スタート10分前に選手を集合させ点呼を行い、次の各号に掲げる事項の点検、確認、措置等を行う。

- (1) 選手のビブ確認、服装及びスキー用具を点検する。
- (2) フィニッシュ審判のスタート合図を確認し、選手をスタートさせる。
- (3) 選手の遅延スタート、不正スタートの判定をする。
- (4) 遅刻した選手のスタートについて、その措置を決める。

7. セクレタリー

セクレタリーは、競技運営上の庶務事項全般の責任を有し、実行委員会の中から選び、次の各号に掲げる集計を行う。

- (1) ジュリー会議、競技委員会及びチームキャプテン会議の議事録の作成
- (2) トランシーバー、記録用紙の準備
- (3) 公式掲示及び成績の掲示
- (4) 選手の抗議に関する事項及び抗議の受理

8. 競技コースの設定

(1) 大回転競技

- 1) 標高差が **100m~200m** 以下で、地形が波状起伏に富んでいること。
- 2) コース幅は少なくとも **40m** 以上でなければならない。
- 3) 旗門のセッティング
 - ① 旗門数は最低 **25** 最大 **50** 旗門とする。
 - ② 旗門間の距離は **20~27m** (推奨値 **22~24m**)
 - ③ 同じ回転方向の2つの連続する旗門(“バナナゲート”)の最寄りのポール間の距離は、**10~17m** で、同じ色の旗門とフラッグでセットされる必要がある。
 - ④ フォールラインと旗門の底辺が直角 (90°) になるように三角フラッグを設置しなければならない。
 - ⑤ グーフィー (右足前) またはレギュラー (左足前) どちらかに有利になることがないように、コースは左右対称にする。
 - ⑥ **ダブルゲートコンビネーション (バナナ)** をセットする場合は、グーフィーとレギュラーの競技者に同じ数をセットする必要がある (スロープ/地形に左右される場合は例外)。
 - ⑦ 1本目と2本目の旗門セッティングは変更すること。

(2) 回転競技

- 1) 標高差が **80m~120m** でコース幅は少なくとも **30m** 以上でなければならない。
- 2) コースは最大限のスピードで巧妙かつ正確にターンができるように設計された連続ターンが盛り込まれていなければならない。
- 3) 旗門のセッティング
 - ① 旗門はフォールラインのみにセットされているのではなく、傾斜線を散在させ、いくつかの深いターンを入れなければならない。できるだけ堅い斜面を用意すること。
 - ② 旗門数は最低 **35** 最大 **55** 旗門とする。

- ③ 旗門間の距離は10～14mとする。(推奨値 11～13m)
- ④ 同じ回転方向の2つの連続する旗門(“バナナゲート”)の最寄りのポール間の距離は、5～6mで、同じ色の旗門とフラッグでセットされる必要がある。
- ⑤ フォールラインと旗門の底辺が直角(90°)になるように三角フラッグを設置しなければならない。
- ⑥ グーフィー(右足前)またはレギュラー(左足前)どちらかに有利になることがないように、コースは左右対称にする。
- ⑦ ダブルゲートコンビネーション(バナナ)をセットする場合は、グーフィーとレギュラーの競技者に同じ数をセットする必要がある(スロープ/地形に左右される場合は例外)。
- ⑧ 1本目と2本目の旗門セッティングは変更すること。

9. その他

その他競技運営に支障をきたす恐れがあると認めるときは、技術代表、競技委員長、実行委員長と合議の上、特例を適用することができる。

3-3 アルペンスノーボード競技 競技規則

1. 用具、用品

- (1) 選手が競技において使用する用具・用品は、SAJ公式用品委員会に認定された用具・用品を使用しなければならない。
- (2) 用具・用品に表示される商標及び社名は、SAJ規定によるもの以外は認めない。なお、上記規制範囲は、コールを受けるときからゴールまでとする。

2. ドロー

ドローは次の各号に掲げる要領により実行委員会で行う。

- (1) ドローは男女別に前年度大会の成績を基準にしたポイントを組み合わせたグループドローとする。
- (2) 前年度大会の同競技種目に出場した選手を優先してドローする。但し、前年度の成績の上位 50%以内を第1グループ、それ以外を第2グループに分け、第1、第2グループの順にドローを行い、スタート順位を決定する。但し、成績が同位の場合は第1グループに入れるものとする。
- (3) 前年度大会に出場しなかった選手は、第3グループとし、前項の第1、第2グループのドローが終了した後に残りの順位枠についてドローを行う。但し、ドローは加盟団体毎とし、申込順に行う。

3. 2本目のセッティング

- (1) SAJ競技規則第6501「シングルフォーマット-2 本滑走」に基づき、常に2つの異なるコースでの2本の滑走で決定しなければならない。可能な限り、両滑走を同日に開催する必要がある。
- (2) 天候により2本目の競技時間が不足すると判断した時は、ジュリー決定によりコースセッティングを1本目と同じにすることができる。

4. 2本目の制限

- (1) 1本目で失格もしくは途中棄権した選手は2本目に出場できない。
- (2) SAJ競技規則第6501-1「2本目の滑走の制限 2106.2」に基づき、2本目の滑走は同じ斜面で行われるが、旗門はリセットしなければならない。1本目の滑走でフィニッシュしたトップ15名の女子とトップ25名の男子は、2本目を滑走する資格がある。

5. 2本目のスタート順

SAJ競技規則第6501-1「2本目の滑走の制限 2106.2」に基づき、次のとおりに定める。

- (1) 同競技種目で、1本目の成績上位15位までをリバーススタートとし、16位以下は1本目の成績順にスタートする。但し、15位が2名以上の場合は、1本目のスタート順と同順とする。
- (2) 競技者が15名に満たない場合は、2本目も同じ人数をリバースする。

6. コースインスペクション

コースインスペクションは、次の各号に掲げる要領により行う。

- (1) 選手がインスペクションでコース内に入る場合は、必ずビブを外側に着用すること。
- (2) 選手以外の競技スタッフ（監督、コーチ等）がコース内に立ち入る場合は、実行委員会交

- 付のネームプレートもしくはゼッケンを着用しなければならない。
- (3) 必要に応じて、公式トレーニングを行うことができる。

7. 抗議

抗議は監督またはコーチが書類をもって、セクレタリーに提出する。ただし、急を要する場合は、当該コートの主審に申し出ることができる。

8. その他

その他必要がある事項は別途定め、チームキャプテン会議に提案、承認を仰ぐ。